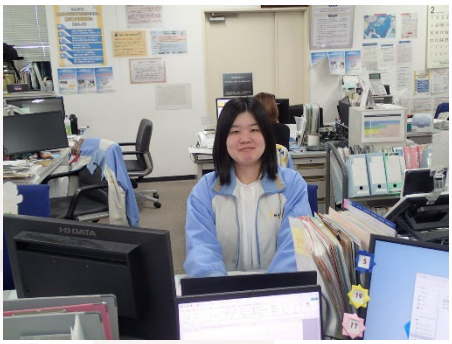
【新入職員】先輩からのメッセージ



被害者援護業務

仙台主管支所　スタッフ

２０２５年　入構

－入構の決め手を教えてください。

　私の地元は自動車中心の社会であり、常に自動車とともに生活しておりました。その中で悲惨な交通事故も目撃し、「誰もが安心して自動車とともに生活できる社会」を作り支えることができる存在になりたいと強く考えるようになりました。そんな時に、被害者支援、事故防止・予防といった大義ある業務を行っているナスバを知りました。ここなら私の想いを実現できると感じ、ナスバへの入構を決意しました。
　ナスバでは、交通事故に対して総合的な支援・対策を行っております。そのため私が思い描いている社会の実現に深く関わることができると感じております。

－業務内容を教えてください。

　現在は、被害者援護業務を担当しております。その中でも、交通事故に遭い重度の障害を負われた方々・そのご家族に対する支援を中心的に行っております。ここでは私が実際に行っている業務をいくつかご紹介いたします。
①経済的支援
ナスバでは、経済的支援として介護料（重度の後遺障害により常時・随時介護が必要な方々に対する、介護等に要する費用）の支給を行っております。
支給までの手続きに関するご相談を受け付けたり、各種制度のご説明を行っております。
②精神的支援
精神的支援では、介護料を受給されている皆様のご家庭に伺い、現在の介護状況を確認しています。また、お困りごとやご相談への対応を行っております。さらに、同じ思いを抱えている方々の情報・意見交換の場として、交流会を企画・運営しております。

　どちらの業務に関しても、皆様の家庭環境・身体の状況は異なっておりますので、一人一人に寄り添った対応が求められます。「ナスバがあってよかった」と感じていただけるよう日々業務に取り組んでおります。

－職場の雰囲気をどのように感じますか。

　風通しが良く、あたたかいと感じております。わからないことや困ったことがあった時に相談しやすく、安心して業務に取り組むことができます。
　職員が安心して業務に取り組めることが、関わっている皆様の安心につながると思いますので、とても良い環境だと思います。そして私自身も職場の一員として、細やかな気配りができるよう心がけております。

－どんな時にやりがいを感じますか。

関わっている皆様から「ありがとう」という言葉を頂いたとき、とてもやりがいを感じました。
介護に関するご相談が入った時には、グループ全体で共有し、より良いお答えができるよう議論します。一度きりの関係ではなく今後も関わっていくため、一層丁寧な対応が求められます。こういったやり取りの結果感謝の言葉を頂いたときが、とてもやりがいを感じる瞬間です。頑張ってよかった、役に立てたという嬉しさもあります。

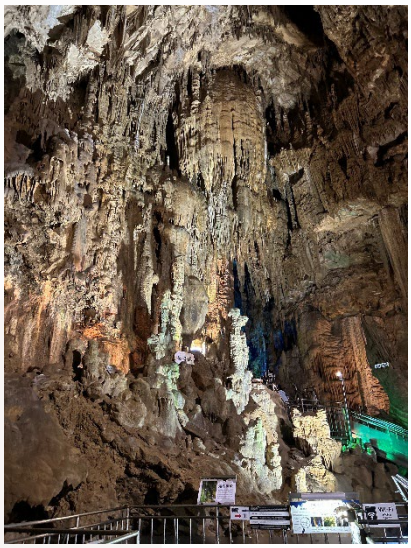
－今後の目標を教えてください。

交通事故により重度の障害を負われた方々が、自分らしく生きていくための支援をしていくことです。
そのためには、丁寧で継続的なかかわりと知識が欠かせません。悩みや相談に真摯に向き合う姿勢を大切にしていくとともに、研修会への参加を通して知識を身に付けていきたいと考えております。さらに実践経験を積んでいくことで、皆様の支えとなれるよう努力してまいります。

－ナスバを目指す人に向けてメッセージをお願いします。

ナスバは、その名の通り自動車事故に焦点を当てた「支える」「防ぐ」「守る」という３つの業務を一体的に実施している専門機関です。各部門で様々な方と関わるため、業務内容も多岐にわたり、時には難しさを感じる場面もあるかと思います。しかし、一人一人に丁寧にかかわる姿勢と学ぶ気持ちがあれば、大きなやりがいを感じられる仕事だと思います。
将来、皆様とともに働くことができる日を心待ちにしております。

＜自己紹介＞



どちらかというとインドア派のため、休日はゲームをしたり散歩をしたりのんびり過ごしています。
しかし、最近は職場で知り合った方とご飯を食べに出かけたり、遊びに行ったりとこれまでよりもアクティブに過ごしています。
一人ではできないことをとことん楽しんでいきたい！という想いで頑張っています。

【新入職員】先輩からのメッセージ

安全指導業務

高松主管支所　スタッフ

２０２５年　入構

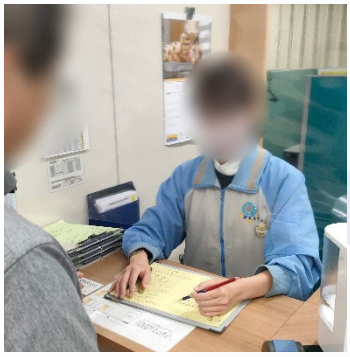
－入構の決め手を教えてください。

　自動車事故のいたましいニュースを目にするたび、そんな悲しいことはなくなってほしいと願っていました。そんな折、「めざすのは、自動車事故ゼロの社会。」を掲げるナスバを偶然知りました。
ナスバでなら、ただ願うだけではなく、自分が叶える立場になれるかもしれない。
その思いから、入構を決めました。

就活生としては、同業他社が存在しない、というのも一つの魅力でしたね…（笑）

－業務内容を教えてください。

　いわゆる「防ぐ」安全指導業務において、主に適性診断業務を担当しています。
人や物を運ぶプロドライバーの方々が主な受診者で、ドライバーの運転の「くせ」（事故に繋がりやすいウィークポイント）を可視化し、安全運転に役立ててもらうものです。
　私は現在、カウンセリング資格取得中で、ドライバーのカウンセリングが実施できません。そのため、受診者のご案内などを主に行っています。
　また、適性診断機器の貸出、県内各所での出張診断など、支所以外での実施についてもメインで行っています。



－職場の雰囲気をどのように感じますか。

　今お世話になっている高松主管支所は、業務中に笑いに包まれることもある、あたたかい空間だと感じています。適度な距離感を保っていて、必要以上に干渉しないけれどお互いに気遣いやコミュニケーションは怠らない、素敵な環境です。
　忙しいなか、丁寧に対応してくださる頼もしい方ばかりで、日々その背中をひよこのように追っています。

－どんな時にやりがいを感じますか。

　ご質問等への対応で相手の方の表情や声色が晴れやかになったとき、お礼の言葉をくださったときなど、日々細かなやりがいを感じています。
　自分が手掛けた広報関連の制作物をじっと見てくださる方、掲載した二次元コードを読んでくださる方を見かけたときは、やりがいを感じたと同時に、今後より多くの方にご注目いただける工夫へのモチベーションになりました。
　ナスバの業務は、それぞれのアプローチで自動車事故ゼロの社会をめざしています。その一員である責任感と、末席に名を連ねている実感もやりがいにつながっています。

－今後の目標を教えてください。

　運転者、同乗者、歩行者、二輪車…。自動車にかかわるのは車に乗る人だけではありません。みなさんが安全に自動車とかかわるために、私に何ができるかを考えています。
　まずは、今携わっている適性診断業務を通じて、プロドライバーの方々の考え、思いなどに耳を傾けることを大切にしたいと思っています。そのためにカウンセリングの資格を取得することが現在の目標です。

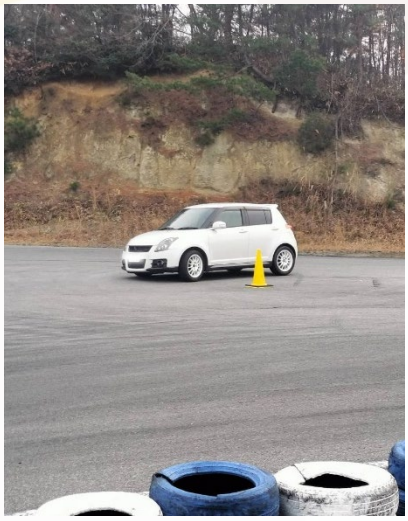
－ナスバを目指す人に向けてメッセージをお願いします。

魅力的な企業は世の中に星の数ほどあります。
その中からナスバを見出したあなたは、すでに「自動車事故ゼロの社会。」をめざす一員です。

どんな人も、自動車とまったくかかわらずに生きることはできません。
支える・防ぐ・守る。どれか一つではなく、三つを一つの組織で担うこと。
それが示すのは、誰ひとり取り残さない姿勢です。

ナスバで一緒にお仕事ができるのを心待ちにしています。

＜自己紹介＞



人文学部卒業後、ナスバへ入構。

貴重な休日は、一日家にこもってゲームをしたり、
外に出てショッピングしたり、カラオケに行ったり、
気の向くままに満喫しています。

写真はサーキットに行ったときのもの。
知識も技術もまだまだですが、運転するのが楽しいです。

最近はポ〇モンの写真撮影に明け暮れています。
ゲームの中でのびのびと暮らしている様子に和みます。